

文化芸術都市京都の文化遺産の 保存・活性化を支える教育

—京都から世界への発信—

研究技術

京都文化芸術都市創生計画を推進する京都市との連携を基盤に集大成として <京都市> と国公立の四大学（京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都産業大学、京都ノートルダム女子大学）が、それぞれの教育研究資源を集結し、京都の有形・無形文化遺産の保存活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施を行っています。この活動を通じて地域に貢献するとともに、将来目標として、国際協力の側面から本取組により京都から世界に、この活動を広めていきます（図1）。海外からも多くの参加者があります（図2）。



図1 国内 EXPO

「Hello!伝統工芸～伝統と4つの出逢い～」

従来技術（現状）

- 1 古都京都には、多くのユネスコ世界文化遺産及び2003年にユネスコが採択した「無形文化遺産の保護に関する条約」で明示された多くの無形文化遺産があります。
- 2 京都市では、京都の優れた文化芸術を保存、再生、創造する取組を進めています。
- 3 また、文化芸術都市として創生することを目指し、2006年に「京都文化芸術都市創生条例」を施行。
- 4 2007年には同条例に基づく「京都文化芸術都市創生計画」を策定。



図2 海外 EXPO

「KYOTO DESIGN now & then」

活動例

- 1 クールビズシャツとして、オーガニックコットンや浴衣地でシャツを作り紬織りの「波に千鳥」や「流水にとんぼ」などの伝統的な模様を、襟や前立て、ポケットなどに入れたもの、又京都の伝統工芸である京絞りで「朝顔」を彩ったYシャツなど数点を展示（京都市役所内）。展示期

間中に「あしなが東日本大震災・津波遺児育英資金」に募金された方に「エコシャツ」をプレゼントする企画も大きな成果と高い評価を得ました。

- 2 エコシャツムーブメントの作品展示は、京都市役所を皮切りに、ミラノ、直島、京町家、上海、大阪、パリと行い、国内外で高い評価を得ました。今後はこのシャツを改良し、販売を目指しています。
- 3 これは「工芸、愛しいものがある生活」として、東日本大震災のあと、被災者支援のために行ってきた「エコシャツムーブメント」からの発信の1例です。

研究者

京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
言語・文化部門

教授 澤田美恵子

日本語教育、
日本語学、
言語学、
伝統工芸

研究テーマ

言語と文化の関係性について

【著書】

工芸・愛しいものがある生活・KOGEI 2011・ことば
の力 ものの力・Memoire du temps